

第38回「企業広報賞」表彰式を開催

優れた広報を展開している企業と経営者、広報実務者に贈る「企業広報賞」の表彰式を、9月8日、2年ぶりに対面で開催した。表彰式では、経済広報センターを代表して、十倉雅和会長(経団連 会長、住友化学 会長)があいさつをした。その後、選考委員の紹介、受賞企業代表・受賞者のあいさつ、表彰状・トロフィーの贈呈が行われ、中村邦晴副会長(経団連 副会長、住友商事 会長)によるあいさつで閉会した。

主催者あいさつ



十倉雅和 (とくら・まさかず)
一般財団法人経済広報センター 会長

本日は第38回「企業広報賞」表彰式にご参加いただき誠にありがとうございます。
新型コロナウイルス感染症のため、去年はオンラインでの開催となりました。2年ぶりに対面で実施できますことを大変うれしく思います。

企業広報は、社会性の視座に立脚し、科学的・論理的・客観的な視点から企業活動を内外に向けて発信するとともに、ステークホルダーの声を社会的課題の解決に結び付けることで、企業と社会をつなぐ重要な役割を果たしています。受賞された皆さまの日ごろの取り組み、ご尽力に心より敬意を表する次第です。

「企業広報大賞」は小田急電鉄株式会社が受賞されました。コロナ禍で経営環境が厳しい中、子育てしやすい社会の実現に取り組み、その重要性を社会に広めたことが高く評価されました。

「企業広報経営者賞」は株式会社荏原製作所の浅見社長、株式会社資生堂の魚谷社長が受賞されました。お二人は経営トップとして積極的に情報発信し、社内外に対して大きな影響を与えています。

「企業広報功労・奨励賞」を受賞された大和ハウス工業株式会社の中尾様は、トップ広報やグループ広報に注力されています。株式会社日立製作所グローバルブランドコミュニケーション本部コーポレート広報部の皆さまは、メディアの立場に立ったきめ細かい対応をされています。

あらためて、受賞された皆さまに心よりお祝い申し上げます。多くの経営者、広報実務者の皆さまにとって励みとなりますことを祈念いたします。

企業広報大賞



小田急電鉄株式会社

星野晃司 (ほしの・こうじ)
取締役社長

受賞の言葉

鉄道はお子さまに人気の身近な存在ですが、子育て世代にとって、お子さまを連れた移動は、急な泣き声やベビーカーの扱いなど心配事やご不安もあります。

当社では、子育て世代の困り事を解消して、楽しく快適に鉄道をご利用いただきたいという思いから、31名の有志による部門横断の検討を行い、昨年11月、子育てに関わる理念として「こどもの笑顔をつくる子育てのパートナー」でありたいという「子育て応援ポリシー」を掲げました。そして、お出掛けがより身近になる「こどもIC運賃の全区間50円化」や、気兼ねなく鉄道をご利用いただけるよう「子育て応援車」などを具体化しました。この取り組みは大きな反響を呼び、「子育ての大変さを理解してくれる気持ちがうれしい」などの声をいただきました。沿線の行政や企業から「子育てしやすい地域を共につくっていきましょう」というパートナーシップを深める機運も生まれ、ファミリー向けイベントなどが共創されています。

当社は、これからも子育て世代に寄り添い、子育てしやすい沿線の実現に向けて取り組んでいきます。また、地域の課題へ真摯に向き合い、グループ経営理念に掲げるお客さまの「かけがえのない時間」と「ゆたかな暮らし」の実現を通じて、地域、社会の持続的な発展に貢献してまいります。

受賞理由

コロナ禍で経営環境が厳しい中、鉄道需要の回復と社会課題である少子高齢化への対応の観点から、子育て支援をはじめとする時宜を得た情報発信を効果的に実施し、小田急電鉄の子育てしやすい沿線を目指す理念を広く浸透させた。また、子育てに関わる社員と積極的にコミュニケーションを取り、意見を反映させた指針を「子育て応援ポリシー」として発信。こうした取り組みが地域の企業や団体、自治体などに共感され、共同した子育て支援策が実施されるなど、子育て支援に取り組む企業姿勢や社会問題を解決しようとする経営ビジョンが全国的に広まったことが高く評価された。

企業
経営者賞



浅見正男 (あさみ・まさお)
株式会社荏原製作所
取締役 代表執行役社長

受賞の言葉

社長になって私が考えたことは、社員の意識を変えなければならないということです。外部環境が大きく変化していく時代においては、正しくやるだけではなく、正しいことは何かを考え、行動を変えることが必要です。そのための原動力は、自分が社会とどうつながっているかを社員に認識してもらい、会社のやろうとしていることに貢献したいと思ってもらいたいと考えました。

そこで、社内のオンラインコミュニティ上で、私自身がニュースを選び、当社の技術がいかに社会に貢献しているかを私の考えとともに発信し続けてまいりました。また、2019年社長就任当時、総務部管下だった広報課を、経営側とのコミュニケーションを迅速化するために経営企画部IR課と統合しました。広報は、社内に対しては、社内のニュース媒体で社員の日々の活動、お客さまによる表彰、事業紹介などを発信してくれたり、執行役が思いを語る動画を作成し配信してくれたりしました。社外に対しては、長期ビジョンや中期経営計画とひも付けて、当社の一貫したメッセージを届けることをサポートしてくれました。

これからも社内外に向かって、当社の考えていること、やりたいことを発信して、社員一丸となって、お客さま、一緒に仕事をしていただける皆さんと共に、世界中の人たちを幸せにすることにつなげたいと思います。

受賞理由

自らを広告塔と位置付け、タイムリーで活発なメディアへの露出を通じて自社の技術がいかに社会に貢献しているかを自身の言葉で発信している。ポンプの老舗企業ながら、近年は半導体産業に欠かせない製造装置メーカーとして世界市場で成長している姿を世間に広く浸透させることに尽力した。社員にも積極的に外部の講演や取材を受けるよう伝えるなど、リーダーシップを発揮し、企業としてオープンな広報風土を醸成していることも評価された。

企業
経営者賞



魚谷雅彦 (うおたに・まさひこ)
株式会社資生堂
代表取締役 社長 CEO

受賞の言葉

私は、ブランドマーケティングの分野に携わってきた経験から、ブランド価値の創造において、コミュニケーションは大きな役割を果たすと考えています。優れた技術や製品も、その良さが正しく伝わらなければ、価値につながらないと思うからです。

当社は企業使命である「BEAUTY INNOVATIONS FOR A BETTER WORLD (美の力でよりよい世界を)」の実現を目指す企業活動を発信してきました。この企業使命の実現において、重要となる企業理念が「PEOPLE FIRST」です。人財は企業にとって最も大切な資産であり、企業使命に共感する社員が活力を持って働くことで、結果としてステークホルダーの利益につながるという考えのもと、策定したものです。

また、新たな価値の創造には多様な発想が必要であるとの考えのもと、当社が積極的に取り組んでいるのが、ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)です。様々なバックグラウンドの人々が自由闊達に発想することで、新しいものが生まれ、社会を豊かにできると考えています。さらに、当社でのD&I推進における学びを共有したいとの考えから、私は経団連のダイバーシティ推進委員会の委員長を務めております。同じ課題意識を持つ経営者の皆さんと議論を重ねることで、日本社会全体のD&I推進に貢献できるのではないかと期待しており、これからも積極的な情報発信やコミュニケーションを強化してまいります。

受賞理由

「PEOPLE FIRST」を最も重要な経営理念として掲げている。事業は「人」が全てで社員の活力があつてこそ、ステークホルダーの利益につながるのと考えるのと、社員が力を発揮できる環境づくりに尽力している。さらに女性活躍支援の取り組みを推進するなど、D&Iの重要性を社員に伝えるとともに、こうした取り組みを広報部門と一体となり社外に対しても積極的に情報発信し、社会に大きな影響を与えている。

企業広報
功労・奨励賞

中尾剛文 (なかお・たかふみ)
大和ハウス工業株式会社
上席執行役員 総務部長 兼 広報企画部長

受賞の言葉

大和ハウス工業は、戦後の住宅不足の解消から現在のデータセンター開発、大規模災害時の応急仮設住宅建設など、必要とされる社会インフラを迅速に提供することを使命とし、成長してまいりました。私が、広報に異動となった1999年当時は、更なる成長に応えるための、攻めの広報業務が中心でありました。しかし、4年後の2003年に創業者の石橋信夫が死去し、「創業者精神の継承」が広報の大きなタスクとなりました。当時の社長だった樋口武男をはじめとして、その後の歴代トップも、世の中に必要とされるモノづくりにこだわりながら、それが我々のDNAであることを、自らの言葉で語り続けています。広報として心掛けてきたことは、そんな想いを持ったトップのメッセージを社内外に正しく届けることと、社会からのご意見やお叱りも真摯に受け止めながら、進化していく当社グループの姿を、そこにある創業者精神とともに発信することでした。

今年、当社は社長の芳井敬一の下に、新たなパーパスを定めました。「生きる喜びを、未来の景色に。」との想いを、我々の「将来の夢」として共有し、新たな一步を踏み出しております。創業者の想いととも、「夢」の実現のために挑戦する姿を、広報活動を通じて届けることができるよう、引き続き仲間と共に努力してまいります。

受賞理由

23年にわたる長年の広報活動を通じて、大和ハウス工業の広報体制やブランド力を築いてきた。トップ広報に注力し、「会社の顔が見える」広報を実現した。同社の事業規模が拡大する中、社員の一体感醸成のためにグループ広報に注力した点も評価された。取材依頼に対しては熱心かつ前向きに対応し、メディアと良好な関係を構築している。

企業広報
功労・奨励賞

株式会社日立製作所
グローバルブランドコミュニケーション本部
コーポレート広報部
森田将孝 (もりた・まさたか)
グローバルブランドコミュニケーション本部
副本部長 兼 コーポレート広報部長
(チームでの受賞)

受賞の言葉

「企業広報賞」には幾つか種類がありますが、私は最初からこの「企業広報功労・奨励賞」を受賞したいと思っていました。私は約20年間の新聞記者というキャリアを経て、2016年に日立製作所に入社しました。2020年から広報部長に就きましたが、いきなり新型コロナウイルス感染症拡大という未知の状況に突入しました。最初は途方に暮れていましたが、コロナ禍での広報活動は誰も経験がなく、何が正解か分からない状況だと気持ちを切り替え、次々に新しい施策に挑戦しました。私のチームメンバーは本当に優秀で、一人ひとりの頑張りがことごとく結果に結び付き、社内からも非常に高い評価を得られました。一方、彼らは新聞記者だった私が突然部長となり非常に不安だったと思います。部のリーダーとして彼らの労に報い、自信をつけてもらうために何ができるか考えた末の一つが、この賞を受賞することでした。よって、私自身も本当にうれしいですが、今回の受賞が彼らの今後の成長の糧になればと思っています。

我々は中期経営計画において、デジタル、グリーン、イノベーションを^{ひょうぼう}標榜しており、この3つの行きつく先は、まさにSociety 5.0だと思っています。我々広報の成長が当社の成長につながり、それが日本経済の成長につながり、Society 5.0にも貢献できると信じておりますので、今後も臆することなく「攻めの広報」を続けてまいります。

受賞理由

メディアごとに担当者を配置したり、記者向けのメールマガジンを発行したり、環境や働き方などといった分野ごとのレクチャーを実施したりするなど、取材するメディア側の立場に立った情報発信を行っている。このようなきめ細かい対応に対し高評価を得た。また、部全体でチームとして広報を実施している姿勢も評価が高かった。

閉会あいさつ

中村 邦晴 (なかむら・くにはる)

一般財団法人経済広報センター 副会長



このたび受賞された皆さまの記念撮影を見ておきますと、「企業広報賞」があつて良かったと思うと同時に、対面で実施することの意義を実感しました。また、本事業を様々な企業や経営者の方々にも知ってほしいという気持ちも湧き上がってきました。今回の表彰式が今後の本賞への応募の機運にもつながることを願っています。

さて、新型コロナウイルス感染症、ウクライナ情勢など、企業を取り巻く世界情勢が大きく変化しています。選考所感で多くの委員の方が述べられていますが、企業が事業活動を通じて、新しい価値の提供を積極的に発信していくことが今後の不確実性時代の広報活動に求められることだと思います。

私自身、サステナブルな未来の実現に貢献することができてこそ、企業は存続して、成長できるという思いで経営に携わってきました。そのためには、時代の流れを捉えられる感性を持ち、新たな付加価値を生み出す人材が必要です。こうした人材を育てるには、仕事に夢を持つという視点が大切だと思っています。

受賞者の皆さまからの言葉をお聞きしても、自分の思いを強く発信し、それに共鳴される方がいることで、企業活動がうまく運営されているのだと思います。人が仕事をつくり、仕事が夢を大きくし、夢が人を育てるといった良い循環を目指すべきだと考えます。まさに、「人づくり」「仕事づくり」「夢づくり」であります。

今回受賞された皆さまは、様々な形で大きな夢を持ち、その実現に向けて行動され、また経営者自らがその夢を積極的に語っておられると思います。こうした取り組みは、多くの企業にとって模範になるものです。

今後も夢を持つことを大切にしながら、社会からの期待に応え、多様なステークホルダーと積極的にコミュニケーションを取っていただくことを期待します。